

toVO トヴェ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 7

No.082 - 100号まで、残り18家族、18ヶ月



No. 082

20190111

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





今号（83 家族目）のご家族 ▶

岩淵 大樹 さん・ともみさん・瑚太郎くん

撮影場所 ▶ Rcamp（弘前市和泉）

【インタビュー】

●2011年3月11日のことは覚えていますか？

▶大樹さん「当時は昼の営業（大樹さんが経営しているラーメン店「Rcamp」）を終えて、昼休憩で車の中で仮眠していました。地震で揺れ始めたのですぐに店に戻ったらまもなく停電しました。当時は下土手町のかだれ横丁の中に店舗がありました。ちょうど店を出たところがスクランブル交差点なのですが停電で信号が消えたので、僕と他のかだれ横丁のスタッフで交通誘導をしました。少しして警察の方も交通誘導には来ていたのですが、やっぱり人数が足りなくて、結局暗くなるまで... たぶん3～4時間はやっていたと思います。昔、東京に住んでいたころに交通誘導の仕事を少ししていた時期あったのですが、その時の経験が役に立ちました。自分が帰る時間はもう街中は電気が全く点いていないので真っ暗でした。途中、コンビニに寄りましたが、もうビールやお菓子が少し残っているくらいで、他の食べ物や飲み物はほとんどありませんでした。」

▶ともみさん「私は当時実家で経営している店舗で仕事をしていたのですが、揺れだしてテーブルの下に隠れたことを覚えています。外の電線がとても大きく揺れているのが見えて怖かったです。道路を走っていた車も止まっていました。その後すぐ停電になり、携帯のテレビで状況を知ろうと思ったら、あの津波の映像が流れていました。まさかこんな大変なことになるとは思いませんでした。その日の夜は実家で過ごしましたが、実家では薪ストーブを使っているので、停電でしたが部屋は暖かく、薪の炎が暗い部屋の中を照らしてくれました。IHクッキングヒーターは使えませんでした。母が薪ストーブに鍋を載せて晩御飯を作ってくれました。」

●震災後、何か変わったことはありますか？

▶大樹さん「震災の翌月、4月上旬にラーメン炊き出しの手伝いをするために石巻へ行ってきました。東京のラーメン屋の方が発起人となり、各地のラーメン店に声を掛け合って、被災された方たちに温かいラーメンを提供するというボランティアだったのですが、僕にも声をかけてもらったので参加することになり、800食のラーメンを被災者の方々に提供してきました。震災から一ヶ月も経っていない頃だったので、道路に大きな船が流されていたり、あたりは瓦礫の山ばかりで、戦争のあとってこういう感じなのかな、って思いました。並んでラーメンを待っている子どもたちにお菓子なども配りました。大変な状況の中でもみなさん温かいラーメンを喜んでくれていたのはとても嬉しかったです。僕らの他にも全国各地からたくさんの方がボランティア活動のために集まっていました。」

▶ともみさん「頭の中で、もしもの時にどうしたらいいかをシミュレーションするようになりま

した。いつ何が起こるか分からないという気持ちも、以前よりは持つようになったかな。お客さんの中にも親戚の方が亡くなられたり、被災されたという方もいて、辛いお話を聞かせていただくこともありました。津波で町が飲み込まれ、車も家も簡単に流される様子がテレビで何度も繰り返し流れる日々の中、妊娠していることがわかったんです。大きな震災の直後だったこともあり、自分の中に新しい命が生まれたことをとても重く感じました。」

●10年後のご家族のイメージは？

▶大樹さん「自分のことはあまりイメージが出来ないのですが、息子がやりたいと思うことをやらせてあげられていたらいいなと思います。例えば大学へ行きたいというのであれば大学へ行かせてあげられるようになってほしいです。選択肢の多い環境を息子に作ってあげられていたらいいなと思いますね。」

▶ともみさん「子どもの将来のために選択肢の多い環境が作れるよう、今の生活の基盤をしっかりとさせて10年後に繋がればいいなと思います。あと、10年経っても気持ちも見た目も若さを保っていられたらいいなと思います！」

▶瑚太郎くん「この地震のことはわからないけれど、その時僕はお母さんのおなかの中にいたんだよと教えてもらいました。10年後は大好きなヒップホップダンスが上手になっていたらいいなと思います。この前、大人のお兄さんたちが踊るとてもかっこいいヒップホップのダンスを見ました。ああいうかっこいいお兄さんたちのように自分もなれたらいいなと思います。」

【取材後記】今年の9月で開業10周年！濃厚鶏白湯煮干スープが人気のラーメン店「Rcamp」の岩淵ファミリー。実はわたくし笹森の妹夫婦と甥っ子の3人です。普段はあまり話しをする機会がないので、震災の日、大樹君が交通整備をしていたり、石巻まで炊き出しのお手伝いに行っていたり、ということを実は今回インタビューするまで知りませんでした。パパの背中をみて、甥っ子には優しく思いやりのある大人になってもらいたいなと思っています。機会がありましたらぜひ「Rcamp」のラーメンも食べに行ってみてくださいね！（今号No.082のインタビュー：笹森まさみ）

【寄付総額】2011年6月～2018年12月24日まで「¥7,278,202」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願ひ致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。